

新庁舎建設検討委員会部会

職員ワーキンググループ 中間報告

第2回 市民ワークショップ

平成30年12月4日(火)

防災・セキュリティ部会

防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎
セキュリティ機能を強化した庁舎の実現に向けて

中間報告

部会の検討事項

▶ 防災拠点機能

- ・ 災害への対応設備（電力・上下水道・通信など）
- ・ 災害応急物資、防災資器材の保管
- ・ 災害対策本部機能

▶ セキュリティ機能

- ・ 敷地や庁舎内のセキュリティ対策
- ・ 情報機器（サーバー、ネットワーク機器）のセキュリティ対策
- ・ フリーアクセスフロアの導入

これまでの検討内容

▶ 防災拠点機能

- ・ 災害への対応
浸水想定、電力の確保、上下水道、通信回線など
- ・ 災害対策本部機能(通信機能、モニター)
- ・ 一時避難所機能（現文化会館は指定緊急避難所として指定）
- ・ 備蓄資材の保管

▶ セキュリティ機能

- ・ サーバー室の設置場所
- ・ 入退庁の管理（ICカードの活用）
- ・ 防犯対策（防犯カメラの設置場所）

第1回市民WSでの意見と対応方針

1. 北海道胆振東部地震では市のサーバーがダウンしており震災の情報がなかなか把握できなかった
2. スマートフォンやネットで情報収集ができない高齢者向けにアナログな情報提供も必要では
3. 市職員は災害対応時に動いてもらう必要があるので職員の安全を確保できる施設であるべき
4. 市内だけでなく周辺地域への支援をできるような視点も必要
5. 停電時に市民に電気を提供できる設備が必要では
6. 災害時に通信機能を確保できる状況も必要では
7. 停電時に備えて自家発電の持続時間も検討するべき
8. 行政の中心として十分に機能をはたせるだけの電源確保が必要
9. 新庁舎の立地を考えると、地震だけではなく水害への対応も必要では
10. 新庁舎では予備電源設備を水没しないようにするべき
11. 一方で、金山ダム建設以降では空知川の氾濫による大きな水害はない

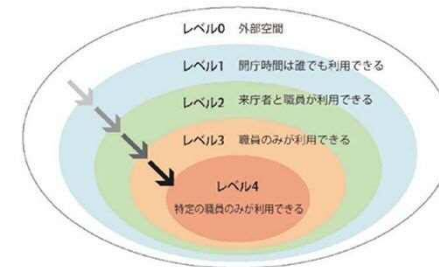
今後の検討予定

▶ 防災拠点機能

- ・ 業務継続計画の策定と体制整備

▶ セキュリティ機能

- ・ フロアのセキュリティレベルの検討
- ・ フリーアクセスフロアの検討



【セキュリティレベル区分のイメージ】

セキュリティレベル	対象諸室イメージ	立入りの可否		セキュリティイメージ
		来庁者	職員	
レベル1	窓口カウンター、待合スペース、ロビーなど	○	○	業務時間内は来庁者が自由に出入りできるオープンな空間とする。
レベル2	会議室など	○	○	窓口では対応できない場合の打合せや会議等で利用するエリアで、必ず職員を伴う利用とする。
レベル3	執務スペース、ロッカー室・更衣室、書庫・倉庫など	×	○	来庁者の立入りは原則不可とし、職員もカードキー等の認証による出入を検討する。
レベル4	重要で機密性の高い情報を扱う書庫・倉庫など	×	△ 特定職員	限られた職員のみが出入りできる。

窓口・行政事務部会

訪れる人にやさしく、コンパクトで効率的な
市役所をめざして

中間報告

窓口・行政事務部会

部会の検討事項

▼窓口機能

- ・ 市民目線に立ったワンストップサービス
- ・ プライバシー保護の徹底

▼行政事務機能

- ・ コンパクトで能動的な行政事務スペース
- ・ 効率的な会議室・相談室・打合せスペース

▼バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

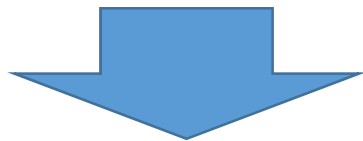
- ・ 見やすい、わかりやすい案内表示
- ・ 誰もが安心して使えるトイレ・授乳室

窓口・行政事務部会

部会の検討にあたって

現庁舎の課題を解決！

窓口が分散、どこで手続きするのかわかりづらい、座りずらくプライバシー保護に欠けるカウンター、相談室がない、会議室が作業スペースに占拠、打ち合わせスペース不足、行政組織の変更のたびに大移動、身体が不自由な人へ配慮が不十分、子どもを連れては行きづらい…等々



「新庁舎に求められる機能」

窓口・行政事務部会

これまでの検討内容

▼窓口機能

- ・ 窓口配置 ~ 市民の利用頻度の高い窓口を低層階に配置する。
- ・ ワンストップサービス ~ ワンストップサービスは、待ち時間が長くなる課題があることからワンフロアサービスを基本として、証明書発行や身体状況等により必要な方のワンストップ窓口を設置する。
- ・ プライバシー保護 ~ 窓口にはプライバシー保護のため衝立を設置するとともに目線が届かない高さの相談ブース（可動式）設置する。
- ・ シーズンカウンター ~ 時期により来庁者が多い申請業務などを集中的に受け付ける窓口を設置する。

▼行政事務機能

- ・ 行政事務スペース ~ 行政事務スペースはオープンスペースを基本とする。また、執務スペースの効率化及び将来的な職員数の変動を考慮し、ユニバーサルレアウトとする。
- ・ 会議室・相談室・打合せスペース
 ~ 大人数の会議室は文化会館との共有を想定して設置せず、小規模の会議室・相談室・打合せスペースを各階に設置する。
- ・ 文書管理 ~ 文書の電子化を導入し、文書保管量のスリム化と書庫スペースの効率化をはかる。
- ・ ワーキングスペース ~ 申請書や納入通知書発送作業等準備を行う共用ワーキングスペースを設置する。

(参 考)

ワンストップサービスと ワンフロアサービスの比較

項 目	ワンフロアサービス	ワンストップサービス
概 要	<p>担当部署ごとに窓口は分かれるが、市民利用の多い申請や届出、証明書発行などの窓口をワンフロアに集約して配置する。</p> <p>ワンフロアサービス (関係課統合方式)</p> <p>来庁 → カウンター (各手続き窓口を移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職員対応: 戸籍・異動・証明 専門職員対応: 保険・医療・福祉 専門職員対応: 税・水道・公住 	<p>住民票、戸籍、年金、保険、福祉関係などさまざまな手続きを一箇所で済ませることができる総合窓口を配置する。</p> <p>ワンストップサービス (後方職員ローテーション方式)</p> <p>来庁 → カウンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職員が出向いて対応: 戸籍・異動・証明 専門的な説明・相談の場合は担当窓口へ移動: 保険・医療・福祉 税・水道・公住
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 関連する窓口を集約配置することで、手続きにかかる移動距離が短くなる。 対応窓口が明確で、専門的な対応が可能となる。 空いている窓口から手続きを済ますことで、効率良く手続きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の手続きなどが一箇所で済むため、市民の移動がない。 ワンストップ窓口のため、わかりやすい。 証明書発行などの事務に適している。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 手続きごとに窓口を移動しなければならない。 窓口のわかりやすい案内表示が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来庁者が集中した場合、短時間で済む手続きと時間がかかる手続きが混在するため待ち時間が長くなる。 専門的な制度説明や相談が伴う場合は、担当窓口への移動が必要。

ユニバーサルレイアウトのイメージ

項 目	従来型のレイアウト	ユニバーサルレイアウト
レイアウト図	<p>A課7名 B課13名 C課14名</p>	<p>A課7名 B課13名 C課14名</p> <p>共用スペースや、増員スペースとして有効活用を図ることが可能。</p>
「島」構成	原則、課や係ごとに「島」を構成。	課や係を単位とした「島」の構成を原則とするが、人数によっては、課や係が混在する場合がある。
スペースの有効利用	「島」を構成する机の数や位置により、スペースの無駄が生じる。	規則的な配置と固定化により、スペース利用の効率化が図れる。
コミュニケーション	課や係内のコミュニケーションが図りやすい。	課や係内に加えて、課や係を超えたコミュニケーションが図りやすい。

第1回市民WSでの意見と対応方針

1. 現庁舎では、目的の窓口がどこにあるのか分かりにくい
2. 手続きができるだけワンストップで出来る動線が良い
3. 案内の位置・見やすさ、施設全体の見通し、総合窓口のような機能を分かりやすい位置に
4. 見通しのよさが必要な一方で、利用者のプライバシーの確保も必要では
5. プライバシーを考えると、窓口には個室・パーティションのブースも必要かもしれない
6. 現庁舎では、駐車場から窓口までのアクセスは良くて便利
7. 高齢者・障がい者の人にも使いやすいよう手摺やエレベーターなどバリアフリー対応は欠かせない

窓口・行政事務部会

今後の検討予定

▼バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

- ・見やすい、わかりやすい案内表示
- ・誰もが安心して使えるトイレ・授乳室

市民活動支援部会

市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎とするための
市民活動支援・文化会館のあり方

中 間 報 告

部会の検討事項

▼市民活動支援機能

- ・市民利用スペース（市民・行政連携、交流の場）
- ・市民の発表、芸術の興行ができるホール
- ・市民が安らげる空間（飲食スペース等）
- ・一時的に多く集まるスペース（選挙、税申告等）

▼文化会館機能

- ・多機能多目的スペース（大ホールや会議室等）
- ・共用利用の可能性（庁舎、文化会館の共用）
- ・公民館事業と市民活動支援事業の整理

これまでの検討内容

▼市民活動支援機能

- ・ 必要諸室の規模、配置 ～可動式パーテーション
- ・ 諸室必要性能、練習室 ～遮音、防音機能
- ・ 庁舎と大ホールの間会議室を配置し共用

▼文化会館機能

- ・ エントランス、ロビーを利用した交流スペース
- ・ 大ホール用途 ～音楽向けに配慮した音響設備
- ・ 客席形状 ～固定席・可動席か継続検討
- ・ グレード設定 ～多目的に使用できる舞台、設備

第1回市民WSでの意見と対応方針

1. ホールの用途、ホールの規模、客席形状について

市民利用はもとより、プロも利用でき全道規模のイベントを開催できるように一定規模が必要

客席形状は、砂川市・当麻町の可動式導入事例を参考に、メリット・デメリット、客席収納時の利用方法などを調査し検討する。

2. 新施設には防音がしっかりした施設が必要

近年建設のホールでは、リハーサル室を設けており、必要な施設と考える。

3. 音楽イベントに対応できるように音が響くようにすべき。

演劇工場との違いを明確にするためにも、音響に配慮した設備にしたい。

4. 現状舞台袖が無く使いづらい、使い手を考えた環境・機能・空間・設備を検討してほしい。

十分な舞台袖と、可動式反響版の設置を検討。

5. 文化会館には小さな子ども連れのできる親子室はほしい。

演劇工場、他市のホールでも親子室を設置しており、必要な施設と考える。

6. 子供連れなど、気軽に訪れることのできる交流の場がほしい。

エントランス・ロビーを活用した交流スペース、展示ギャラリー機能を検討

市民活動支援部会

今後の検討予定

▼市民活動支援機能

- ・市民利用スペース（市民・行政連携、交流の場）、会議室の共用

▼文化会館機能

- ・大ホールの用途、客席形状について

砂川市地域交流センターゆい



当麻町公民館まとまーる



座席構造の違いによるメリット・デメリット

	固定式	可動収納客席
導入事例	名寄市、深川市	当麻町、砂川市
ホール規模	中規模650席程度	小規模450～500 可動席300
利用事例 (ニーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサート/発表会 ・集会/会議/講演会/講習会 ・映画会/練習 	【ステージ部分】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート/発表会 ・集会/会議/講演会/講習会 ・映画会 ・練習 【平土間部分】 <ul style="list-style-type: none"> ・演劇、コンサート・ダンス、舞踏・レブ ショウ/飲食パーティー ・展示/物販・ワークショップ ・練習/リハーサル
ホール性能	○ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽などの利用に配慮した設計が可能で高いホール性能を確保できる。 ・舞台及び客席を一体的なデザインとして統一しやすい。 	× <ul style="list-style-type: none"> ・ホールとしての性能以上に対応性（仮設性）に配慮した計画となる ・様々な利用に対して、舞台や客席の可変などの設置手間取ることがある。
客席	○ <ul style="list-style-type: none"> ・客席固定されることで、揺れや異音が発生する懸念がない。 ・ホスピタリティ（思いやり）の高い椅子を設置できる。 	× <ul style="list-style-type: none"> ・可動客席故に揺れや異音の発生が懸念される。 ・可動客席のため、選択できる椅子に制約がある。 ・出入りが前方しかできず、公演中の移動は目立ってしまう。
構造	○ <ul style="list-style-type: none"> ・観客席の下にトイレなどを配置することが可能となる。 	× <ul style="list-style-type: none"> ・可動客席及び移動椅子の収納場所が必要となる。
多様な利用	× <ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動や利用への対応が制約される。 ・集会や講演会を除くと舞台芸術利用が主体となる。 	○ <ul style="list-style-type: none"> ・多様な使い方、幅広いニーズに応えられる。 ・舞台芸術だけでなく、美術や書道の展示などへの利用が広がる。 ・自由な発想で任意の位置に舞台や客席を設けることができる。 ・パーティーや会議講習会などの利用もできる。
利用率	× <ul style="list-style-type: none"> ・一定程度制約されることも予想される。 	○ <ul style="list-style-type: none"> ・利用率が高くなることが予想される
コスト	○ <ul style="list-style-type: none"> ・可動客席に比較すると初期投資コストやランニングコストが安価となる。 	× <ul style="list-style-type: none"> ・初期投資コスト・メンテナンスコストが必要になる。 ・メンテナンス業者が道外のため、故障時すぐに来てもらえない。

建物構造部会

耐震性能を確保し災害に強く
人と環境にやさしい庁舎を目指して
中間報告

部会の検討事項

▼防災拠点機能

- ・耐震性能を確保し、災害に強い庁舎

▼バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

- ・誰にも優しく、利用しやすい庁舎

▼省エネ・省資源機能

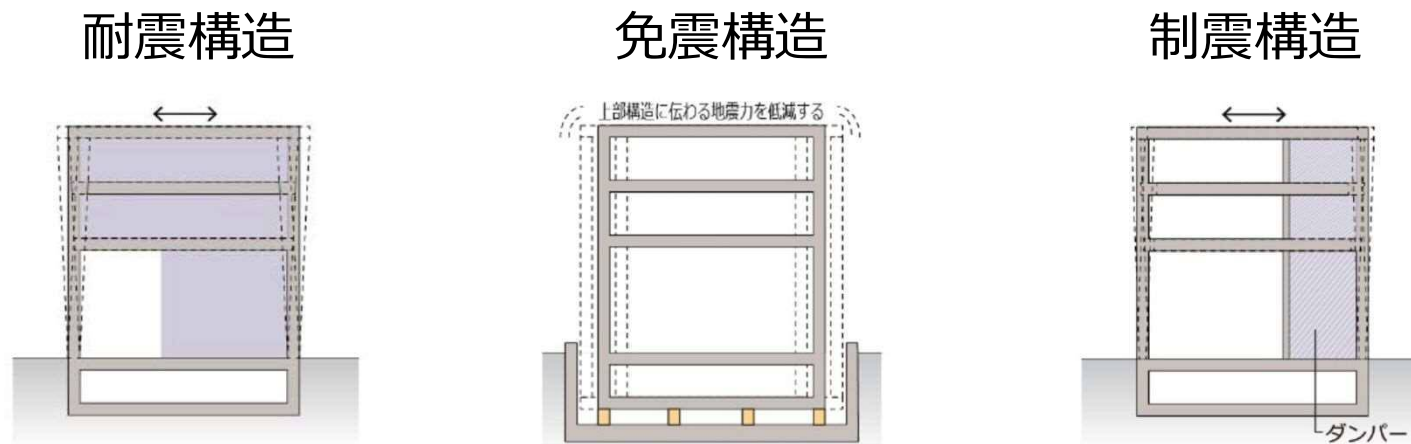
- ・高気密、高断熱を基本とし、自然エネルギーを活用した環境負荷の少ない庁舎

▼維持管理機能

- ・長寿命に耐えうる建築構造

これまでの検討内容（1）

▼防災拠点機能(庁舎の耐震機能)



- いずれの工法を採用しても耐震安全性は確保できる。
- 制震構造は一般的に低層建物では効果は低い。
- 免震構造は建設、メンテナンスコストが高価。
- 耐震構造は建物の揺れは大きくなるが、重要箇所の免震化が可能。
- 非構造部材（天井、内外装材等）や什器類の耐震対策の検討。

これまでの検討内容（２）

▼防災拠点機能(庁舎の洪水対策)

- ・ 1階フロアレベルを想定浸水深以上とする。（約50cm以上）
- ・ 想定を超える浸水に対する検討。（防潮板、防水シャッター等）

▼バリアフリー・ユニバーサルデザイン（BF・UD）機能

- ・ 官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準等、各種ガイドラインや法令等に基づくものとする。
- ・ 分かりやすく明快な動線計画と誰もが容易に移動できる空間設計。
- ・ ひらがな、ピクトグラム（絵文字）や色などの工夫や、多言語表記等により、来庁者が理解しやすいサイン計画。
- ・ 庁舎入口付近の思いやり駐車場。
- ・ 雨に濡れずに庁舎へアクセスする通路の庇等。 等々

これまでの検討内容（3）

▼省エネ・省資源機能

- ・ 外断熱工法や断熱サッシ、遮熱性や耐久性の高い防水工法の採用により、エネルギー消費量の削減を目指します。
- ・ 自然採光や自然通風による換気等、自然エネルギーの活用。



環境負荷低減に配慮した官庁施設 イメージ図

これまでの検討内容（４）

▼維持管理機能

- ・ 庁舎の長寿命化、維持管理費用、修繕や更新費用などのライフサイクルコストの縮減に配慮した経済効率の高い庁舎を目指す。
- ・ レイアウトの自由度が高く、将来の行政需要に対応できるフレキシビリティの高い構造とする。（オープンプロア、OAフロアユニバーサルレイアウト、可動式の仕切り壁 等）
- ・ 内外装材は耐久性に優れ、メンテナンスの容易な材料の採用。
- ・ ビルマネジメントシステム（BEMS）の導入と照明や空調設備等の運転スケジュールを自動制御することにより省エネ、省コストを目指す。

第1回市民WSでの意見と対応方針

1. 効率性と経済性、両方の視点で検討してほしい（100年、長い目で見て必要なもの）
2. 建設費だけに目が行きがちであるが、ランニングコストの視点も大切だと思う
3. 施設集約による経済的効果もしっかりと考えてほしい
4. 現状施設は真夏や冬では劣悪な環境になるので、空調設備は整えた方がよい
5. 新築になるのだから、バリアフリー（EV、手摺、トイレ等）は当然対応してほしい
6. 高齢者も使いやすいトイレが必要
7. 視覚障害者用の点字が高齢者にとって不自由な場合もある
8. 子供連れの人用に授乳室が必要では
9. 木材を使った温かみのある庁舎にしてほしい

今後の検討予定

▼防災拠点機能

- ・非構造部材に関する検討

▼バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

- ・屋内外の通路等におけるBF・UDに関する検討

▼省エネ・省資源機能

- ・設備技術による省エネ手法の検討

▼維持管理機能

- ・設備や内外装材等の維持管理機能の検討